

「新北区文化センター建設工事設計業務」公募型簡易プロポーザルに関する総評

今回のプロポーザルでは、調査表提出者5者から意欲的な提案が寄せられ、二次審査（ヒアリング）での厳正な審査を経て、委託先候補事業者1者を特定しました。

本業務は、旧北区役所跡地に、北区民・市民の文化活動・地域活動等の拠点として、老朽化等の課題を抱えていた北区文化センター（図書館、児童館を含む。）を移転集約し、新たな複合公共施設として整備するための設計を行うものです。プロポーザルでは、高低差のある敷地条件と、文化センター、図書館、児童館の異なる施設が共存する建物として、管理運営者の違いに配慮しつつ、各施設利用者が快適に過ごせるような動線、ゾーニングや平面計画とし、区民にとって、親しみやすく、利用しやすい、安全安心な文化活動・地域活動の拠点であること、さらに、駅からのメイン動線からの見え方や施設の顔となるエントランス等に対する設計上の配慮・工夫事項に関する提案を求められました。

特定された委託先候補事務所からは、駅側アプローチに対し、新文化センターの南面を徐々にセットバックして圧迫感を押さえると共に、1階の児童館の遊び場をはじめとした施設内の活動的な諸室と屋外テラスを各階南側に配置することで、各施設の活動を発信し、親しみやすさと賑わいを演出することが提案されました。ゾーニングでは、基本的に各階で用途を明確に区分し、共用部分や吹き抜け空間を最小限としながら、専用部分で交流スペースを設けることで、複合施設としての運営管理の容易さと施設相互の連携・交流機能の両立が図られており、利用者と運営者双方の視点に立った実現可能性の高い提案として高く評価されました。

また、東側道路に沿って駅に近い場所をメインエントランスとし、屋内でエスカレーターとエレベーターにより歩行者動線をバリアフリー化する「スキップモール」を配置するとともに、敷地の高低差を活かして各施設に直接入れるサブエントランスを配置するなど、利用者に分かりやすく安全で便利な動線計画が提案されています。

さらには、ZEB_Orientedを達成するための導入技術、積極的な木材利用、省コスト化への工夫や配慮についても、一定水準以上の提案がなされるなど、全体を通して高い評価が得られました。

ヒアリングでは、主任担当技術者をはじめとする出席者による明確な質疑応答により、本業務への十分な理解及び豊富な知識が感じられた点が評価のポイントとなりました。

2022年10月

神戸市建築工事設計監理外注委員会